

平成31年度

事業報告書

公益財団法人広島平和文化センター

目 次

事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	2
3	理事会等の開催	7
4	定款の変更	9
5	職員の状況	10
6	事業の実施状況等	
I	事業の実施状況	
(1)	公益目的事業1(平和推進事業)	
ア	被爆体験継承普及事業	11
イ	平和意識高揚事業	18
ウ	国際平和推進事業	21
エ	施設の管理運営	28
(2)	公益目的事業2(国際交流・協力事業)	
ア	国際交流・協力推進事業	33
イ	国際化推進事業	36
ウ	ひろしま奨学金支給事業	39
(3)	収益事業等	
ア	広島平和記念資料館での収益事業	39
イ	広島国際会議場での収益事業	40
ウ	広島国際会議場の管理運営	40
II	無償使用貸借資産	40
III	事業報告の附属明細書	41

事業報告書

事業報告書

平成 3 1 年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告書
(平成 3 1 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 3 1 日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島の被爆体験を根底に据え、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人類的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、もって世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

昭和 5 1 年 4 月 1 日

イ 基本財産

設立当初の基本財産は 1, 0 0 0 万円（全額広島市出資）であったが、その後 1 3 億 2, 6 9 5 万 6, 4 2 5 円を増額し、平成 3 1 年度末現在の基本財産は 1 3 億 3, 6 9 5 万 6, 4 2 5 円（うち広島市出資 1 2 億 6 4 8 万 9, 0 4 3 円）である。

ウ 実施事業

実施事業は、次のとおりである。

- (ア) 平和の推進及び国際交流・協力に関する調査研究
- (イ) 原爆被爆の実相、平和の推進及び国際交流・協力に関する国内外の資料・情報等の収集、整理及び活用
- (ウ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する国際会議、講座、講演会、展示会等の開催
- (エ) 国内外の研究所、市民団体等との交流並びに平和の推進及び国際交流・協力活動に対する助成
- (オ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する出版物の刊行及び頒布並びに記念品の製作・販売

- (カ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する施設の管理の受託
- (キ) その他公益財団法人広島平和文化センターの目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

会 長	1 人
理 事 長	1 人
常務理事	2 人
理 事	2 0 人
監 事	2 人
評 議 員	1 6 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
平成31年 4月 1日	理 事	大 芝 亮	就 任
〃	〃	田 代 聡	就 任
令和元年 6月 14日	会 長	松 井 一 實	重 任
〃	理 事 長	小 溝 泰 義	重 任
〃	常務理事	城 一 博	重 任
〃	〃	岩 崎 静 二	重 任
〃	理 事	井 上 隆 志	重 任
〃	〃	植 野 実智成	重 任
〃	〃	大 芝 亮	重 任
〃	〃	岡 野 照	重 任
〃	〃	小 川 順 子	重 任
〃	〃	上久保 昭 二	重 任
〃	〃	川 野 徳 幸	重 任
〃	〃	神 部 泰	重 任
〃	〃	岸 本 伸 三	重 任
〃	〃	北 川 建 次	重 任

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
令和元年 6 月 1 4 日	理 事	ビーター・ゴールズベリ	重 任
〃	〃	柴 田 幸 子	重 任
〃	〃	田 代 聡	重 任
〃	〃	茶 幡 博 子	重 任
〃	〃	西 迫 利 孝	重 任
〃	〃	延 本 真栄子	重 任
〃	〃	福 間 伸 二	重 任
〃	〃	三 角 幸 子	重 任
〃	〃	渡 部 朋 子	重 任
〃	〃	渡 辺 宏	重 任
〃	〃	小 泉 崇	就 任
〃	監 事	尾 木 朗	重 任
〃	〃	久 光 章	重 任
令和元年 7 月 1 5 日	理 事 長	小 溝 泰 義	辞 任
令和元年 7 月 1 6 日	理 事	小 溝 泰 義	辞 任
〃	理 事 長	小 泉 崇	就 任
令和元年 1 1 月 1 0 日	理 事	植 野 実智成	辞 任
令和元年 1 2 月 1 日	〃	伊 木 剛 二	就 任
令和元年 1 2 月 3 1 日	〃	岡 野 照	辞 任
令和 2 年 1 月 1 日	〃	小 川 裕 介	就 任
令和 2 年 1 月 3 1 日	〃	福 間 伸 二	辞 任
令和 2 年 2 月 1 日	〃	宮 田 俊 範	就 任
令和 2 年 3 月 3 1 日	〃	井 上 隆 志	辞 任
〃	〃	上久保 昭 二	辞 任
〃	〃	城 一 博	辞 任
〃	〃	西 迫 利 孝	辞 任

イ 令和2年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
会 長	松 井 一 實	平成23年 4月11日
理 事 長	小 泉 崇	令和元年 6月14日
常務理事	城 一 博	平成27年 4月 1日
〃	岩 崎 静 二	平成28年 4月 1日
理 事	伊 木 剛 二	令和元年12月 1日
〃	井 上 隆 志	平成30年 4月 1日
〃	大 芝 亮	平成31年 4月 1日
〃	小 川 順 子	平成23年 4月 1日
〃	小 川 裕 介	令和2年 1月 1日
〃	上久保 昭 二	平成26年 4月 1日
〃	川 野 徳 幸	平成29年 4月 1日
〃	神 部 泰	平成28年12月26日
〃	岸 本 伸 三	平成23年 4月 1日
〃	北 川 建 次	平成23年 4月 1日
〃	ヒーター・コールスベリ	平成23年 4月 1日
〃	柴 田 幸 子	平成23年 4月 1日
〃	田 代 聡	平成31年 4月 1日
〃	茶 幡 博 子	平成23年 4月 1日
〃	西 迫 利 孝	平成30年 4月 1日
〃	延 本 真栄子	平成23年 4月 1日
〃	三 角 幸 子	平成30年 4月 1日
〃	宮 田 俊 範	令和2年 2月 1日
〃	渡 部 朋 子	平成23年 4月 1日
〃	渡 辺 宏	平成29年 4月 1日
監 事	久 光 章	平成30年 4月 1日
〃	尾 木 朗	平成30年 6月27日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
平成31年 4月 1日	評 議 員	若 林 真 一	就 任
令和元年 6月 14日	〃	池 上 忍	重 任
〃	〃	伊 藤 伸一郎	重 任
〃	〃	越 智 光 夫	重 任
〃	〃	片 岡 勝 子	重 任
〃	〃	川 中 文 子	重 任
〃	〃	多 田 チャニントン	重 任
〃	〃	谷 村 武 士	重 任
〃	〃	月 村 佳 子	重 任
〃	〃	坪 井 直	重 任
〃	〃	徳 田 洋 子	重 任
〃	〃	丹 羽 太 貫	重 任
〃	〃	古 谷 章 子	重 任
〃	〃	松 村 誠	重 任
〃	〃	三 上 貴 教	重 任
〃	〃	森 瀧 春 子	重 任
〃	〃	若 林 真 一	重 任
令和元年 6月 30日	〃	越 智 光 夫	辞 任
〃	〃	川 中 文 子	辞 任
令和元年 7月 1日	〃	神 谷 研 二	就 任
〃	〃	森 戸 美佐子	就 任
令和元年 11月 11日	〃	谷 村 武 士	辞 任
令和元年 11月 12日	〃	植 野 実智成	就 任
令和元年 12月 31日	〃	伊 藤 伸一郎	辞 任
令和2年 1月 1日	〃	上 野 慎一郎	就 任

イ 令和2年3月31日現在の評議員は次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	池 上 忍	平成23年 4月 1日
〃	上 野 慎一郎	令和2年 1月 1日
〃	植 野 実智成	令和元年 11月 12日
〃	片 岡 勝 子	平成23年 4月 1日
〃	神 谷 研 二	令和元年 7月 1日
〃	多 田 チャントーン	平成23年 4月 1日
〃	月 村 佳 子	平成26年 5月 1日
〃	坪 井 直	平成23年 4月 1日
〃	徳 田 洋 子	平成26年 6月 10日
〃	丹 羽 太 貫	平成27年 7月 1日
〃	古 谷 章 子	平成23年 4月 1日
〃	松 村 誠	平成25年 5月 19日
〃	三 上 貴 教	平成30年 4月 1日
〃	森 瀧 春 子	平成23年 4月 1日
〃	森 戸 美佐子	令和元年 7月 1日
〃	若 林 真 一	平成31年 4月 1日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和元年 5月28日	第1回	1 職員の職務に係る倫理の保持に関する状況及び職員の職務に係る倫理の保持に関して講じた施策に関する報告について (報告第1号) 2 平成30年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告及び決算について (第1号議案)	終 了 承 認
令和元年 6月14日	第2回	1 会長の選定について (第2号議案) 2 理事長の選定について (第3号・第4号議案) 3 常務理事の選定について (第5号・第6号議案)	選 定 選 定 選 定
令和元年 7月22日	第3回	1 平成31年度公益財団法人広島平和文化センター収支予算の補正について (第7号議案)	原案可決
令和元年 10月16日	第4回	1 公益財団法人広島平和文化センター平成31年度事業実施状況報告(4月～8月分)について (報告第2号) 2 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第8号議案)	終 了 原案可決

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和２年 ３月２７日	第５回	１ 令和２年度公益財団法人広島平和文化センター事業計画及び収支予算について （第９号議案） ２ 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について （第１０号議案）	原案可決 原案可決

(2) 評議員会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和元年 ６月１４日	第１回	１ 平成３０年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告について （報告第１号） ２ 平成３０年度公益財団法人広島平和文化センター決算について （第１号議案） ３ 評議員の選任について （第２号～第１７号議案） ４ 理事の選任について （第１８号～第４２号議案） ５ 監事の選任について （第４３号・第４４号議案）	終 了 承 認 選 任 選 任 選 任
令和元年 ６月２７日	第２回	１ 評議員の選任について （第４５号・第４６号議案）	選 任

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
令和元年 7月25日	第3回	1 平成31年度公益財団法人 広島平和文化センター収支予 算の補正について (第47号議案)	承認
令和元年 11月11日	第4回	1 評議員の選任について (第48号議案)	選 任
令和元年 12月1日	第5回	1 理事の選任について (第49号議案)	選 任
令和元年 12月25日	第6回	1 評議員の選任について (第50号議案) 2 理事の選任について (第51号議案)	選 任 選 任
令和2年 1月30日	第7回	1 理事の選任について (第52号議案)	選 任
令和2年 3月27日	第8回	1 令和2年度公益財団法人広 島平和文化センター事業計画 及び収支予算について (第53号議案) 2 理事の選任について (第54号・第55号議案)	承認 選 任

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職員の状況

令和2年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区 分	局 長 級	部 長 級	課 長 級	課 長 補 佐 級	係 長 級	主 事	非 常 勤	計
総 務 課		1		1	3	3	1 5	2 3
施 設 課				1	1	1		3
平 和 連 帯 推 進 課			1		2	1		4
平 和 首 長 会 議 ・ 2020 ビジョン推進課			1	1		8	2	1 2
国 際 交 流 ・ 協 力 課		1		1	1	3	6	1 2
学 芸 課	1		1	1	2	7	7	1 9
啓 発 課			1	1	1	7	2	1 2
国 際 会 議 場	1			1	2	2	4	1 0
国立広島原爆死没者 追悼平和祈念館		1		3	1	4	6	1 5
計	2	3	4	1 0	1 3	3 6	4 2	1 1 0

(注) 局長級に平和記念資料館長及び国際会議場館長を、部長級に総務部参事、国際交流・協力担当部長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館長を、課長補佐級に主幹、国際会議場副館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館副館長を、係長級に主査、主任及び国際会議場館長代理を、主事に学芸員をそれぞれ含む。

6 事業の実施状況等

I 事業の実施状況

(1) 公益目的事業1 (平和推進事業)

ア 被爆体験継承普及事業

(7) 修学旅行生への被爆体験講話等 (決算額：796万4千円)

- a 被爆の実相を次の世代に正しく伝え、平和意識の高揚を図るため、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者などを対象に、学校等からの依頼を受けて、被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。

・被爆体験講話

区 分	件 数	人 数
小 学 校	885 (809)	61,500 (56,030)
中 学 校	318 (285)	37,084 (33,291)
高等学校	137 (126)	20,024 (18,790)
そ の 他	590 (466)	18,348 (13,346)
計	1,930 (1,686)	136,956 (121,457)

※()内は財団委嘱の講師による被爆体験講話で内数。

- b ヒロシマの心を伝えるとともに、被爆体験継承の推進を図るため、8月6日を含む夏休み期間に、平和記念公園を訪れる人々へ、事前予約不要かつ無料で被爆体験講話を聴く機会を提供した。

・時 期：令和元年8月6日(火)、11日(日)～16日(金)

・場 所：広島平和記念資料館、広島国際会議場

・参加者：1,838人

- c 被爆者の記憶に残る被爆当時の光景を後世に残すため、証言者と高校生が共同で「原爆の絵」を制作し、完成した作品を被爆体験講話等に活用するとともに、若い世代への被爆体験の継承を推進することになっている。

・制作協力校：広島市立基町高等学校

・制作数：15作品 (令和2年夏に完成予定)

(イ) ヒロシマ・ピース・ボランティア事業（決算額：382万7千円）

被爆体験継承の推進を図るため、ボランティアによる広島平和記念資料館の展示や平和記念公園内の慰霊碑等の解説を行った。

・ボランティア登録者数 235人（令和2年3月31日現在）

・活動実績

① 館内移動解説 1,744団体（5,587人）

② 公園内移動解説 1,358団体（23,129人）

(ウ) 被爆者証言ビデオの制作（決算額：237万5千円）

広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存するとともに、被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、複製したDVD等の貸出しやインターネット上での公開を行った。

〔オリジナル版〕（1本に1人分を約20～30分間収録）

・DVD 10本制作（累計制作数 1,125本）

〔ダイジェスト版〕（オリジナル版を編集し、1本に3～4人分を約30分～40分間収録）

・DVD 3本制作（累計制作数 168本）

(エ) 被爆体験証言者交流の集いの運営（決算額：3万7千円）

被爆体験継承活動を行っている団体の活動に資するため交流の集いを開催し、団体相互の情報交換の促進等を行った。

・期 日：令和元年12月6日（金）

・場 所：広島平和記念資料館地下1階 会議室2

・内 容：平成30年度活動報告

平成31年度活動計画（案）の説明

広島平和記念資料館事業の概要及び入館者の概況の説明

意見交換

(オ) 平和文化センターインターンシップ事業（決算額：6千円）

大学生等を実習生として受け入れ、広島平和記念資料館等での就業体験を通して、被爆地ヒロシマについて理解を深める機会を提供した。

・受入人数：16人（大学生8人、中学生8人）

・受入期間：2日～5日／人

(カ) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（決算額：54万4千円）

市民に、平和の原点としてのヒロシマを見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探究する機会を提供するため、広島市立大学と連携し、連続講座を開催した。

- ・期 間：令和元年10月～令和2年2月（土曜日、全6回）
- ・場 所：広島平和記念資料館
- ・対象者：18歳以上で広島市内に在住又は通勤・通学している人
- ・受講者：80人（広島市立大学の学生41人を含む。）

(キ) 国内原爆写真展用資料の普及・活用（決算額：74万3千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展を開催する国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスター・パネルを貸し出した。

貸出資料	点数
原爆写真ポスター	106
原爆写真パネル	41
計	147

(ク) 中・高校生ピースクラブの開催（決算額：151万4千円）

平和を推進していく若者の育成を図るため、中・高校生に対して、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。

- ・期 間：令和元年5月～令和2年2月（全9回）
- ・場 所：広島平和記念資料館など
- ・内 容：① 広島平和記念資料館の見学、平和記念公園内の碑めぐり
② 原爆被害の概要の学習
③ 長崎県での平和学習（2泊3日）
④ 中・高校生ピースクラブOB・OG交流会への参加
- ・参加者：中学生、高校生（37人）
- ・ボランティア：18歳以上（7人）

(ケ) 平和学習講座（決算額：40万6千円）

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めてもらうとともに、自ら平和活動に取り組む意識を醸成するため、講師を小・中・高等学

校等に派遣し、平和学習を実施した。

・登録講師：9人（令和2年3月31日現在）

派遣先	回数
小・中・高等学校	98
その他	23
計	121

また、夏休み期間に広島平和記念資料館の来館者を対象とした講座を4回実施した。

(コ) 平和記念資料館平和学習ワークブック等の作成（決算額：314万5千円）

修学旅行生等が、広島平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、また、広島市への修学旅行誘致及び資料館入館者増加策の一助として、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」、「広島平和記念資料館学習ハンドブック」及び「平和記念公園めぐり」を作成・配付した。

追加作成部数	ワークブック	小学生用	150,000部
	ワークブック	中・高校生用	50,000部
	ハンドブック	小学生用	130,000部
	ハンドブック	中・高校生用	130,000部

(カ) 国内原爆展の開催（決算額：969万1千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国内世論を醸成するため、原爆展を開催した。

期 間	場 所		内 容	入場者
令和元年 7月10日(水)～ 7月30日(火)	徳島県 徳島市	(メイン会場) 徳島県立21世紀 館	写真パネル・被 爆資料・原爆の 絵の展示、原爆 記録映像上映、 被爆体験講話 (市川市を除 く)等	8,113人 (2会場計)
令和元年 7月10日(水)～ 8月7日(水)		(サテライト会場) 徳島県戦没者記念 館		
令和元年 8月4日(日)～ 8月18日(日)	鳥取県 鳥取市	鳥取市歴史博物館		1,114人

令和元年 8月14日(水)～ 8月22日(木)	千葉県 市川市	生涯学習センター		663 人
-------------------------------	------------	----------	--	-------

(シ) 原爆展・平和学習用資料の普及・活用（決算額：70万8千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆展・平和学習用資料を貸し出した。

貸 出 資 料	点 数
D V D 等映像資料	591
市民が描いた原爆の絵（複製）、ポスター、絵本セット等	529
計	1,120

(ス) 英語で伝えようヒロシマセミナー（決算額：8万2千円）

被爆の実相を英語で正しく伝えてもらうため、市民を対象に原爆被害の概要及び英語での表現方法に関するセミナーを開催した。

区 分	対 象	期 日	延参加人数
ベーシック編	初級～中級者	① 令和元年7月14日(日) ② 令和2年2月2日(日)	416
アドバンス編	中級～上級者	① 令和元年7月21日(日) ② 令和2年2月8日(土)	306

(セ) 被爆体験伝承者による伝承講話の実施（決算額：448万3千円）

広島平和記念資料館において、来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者による講話を定時開催した。

区 分	件 数	人 数
日本語での講話	707	12,280
英語での講話	361	7,160
計	1,068	19,440

また、学校等からの依頼を受けて、市内の会場に無料で被爆体験伝承者を派遣し、伝承講話を行った。

区 分	件 数	人 数
日本語での講話	187	16,434
英語での講話	62	1,226
計	249	17,660

(7) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（決算額：1,410万6千円）

広島平和記念資料館の長岡省吾初代館長が収集した8ミリフィルムのHDリマスター化、貸出のための「懐中時計」のレプリカ作製や「眼鏡」のレプリカ修復など必要な保存措置を講じるとともに、収蔵庫や展示室の環境調査を行い、改善を図った。

また、被爆者証言ビデオのテキストデータ化・多言語化を進めるとともに、ホームページでの公開やY o u T u b eでの配信を行った。

(8) 被爆資料の収集等の強化（決算額：867万2千円）

a 被爆資料の収集の強化

被爆者やその遺族を訪問して、被爆状況の調査及び聴き取りを行い、資料の寄贈を呼び掛けるとともに、広島平和記念資料館の展示内容や出版物の充実を図るため、資料館の沿革に係る資料や情報の調査・収集を行った。

また、英国国立公文書館等が所蔵する被爆関連写真の調査・収集を行った。

区分	英国	米国
調査期間	令和元年9月15日(日) ～9月22日(日)	令和元年9月28日(土) ～10月14日(月)
調査場所	①英国国立公文書館 ②英国帝国戦争博物館 ③英国国立陸軍博物館	①国立宇宙航空博物館 ②国立米国歴史博物館 ③米国陸軍遺産教育センター ほか2施設、1個人
収集点数	写真766点、映像5点	写真1,910点、文書1,967点

b 海外博物館とのネットワークの強化

米国での「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」（P23(キ)参照）の開催に合

わせて、開催地近辺の平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について協議を行った。

- ・訪問先：ホロコースト記念博物館（ワシントンDC）、国立核実験博物館（ラスベガス市）等

また、国内外の博物館関係者が出席する国際博物館会議（ICOM）京都大会に出席するとともに、広島で開催されたICOM国際委員会の1つであるICMEMOのオフサイトミーティングに参加し、他館の館長等と交流を図った。

- ・ICOM京都大会出席：令和元年9月2日(月)・3日(火)
- ・ICMEMO（広島）参加：令和元年9月5日(木)

(f) 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業（決算額：426万5千円）

広島平和記念資料館の来館者等に被爆の実相などを正確かつ効果的に伝えるため、資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフを対象に、体系的な研修を継続的に実施した。

- ・対象：被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者など
- ・内容：総合研修（10回）、英語研修（164回）、
接遇研修（1回）、パソコン研修（2回）
- ・参加者：延べ1,744人

(ツ) 広島平和記念資料館の企画展の実施（決算額：357万8千円）

常設展示を補完するとともに、再来館の動機づけにつなげ、また、未公開資料の活用及び資料館としての調査・研究成果発表の機会とするため、年2回企画展を開催した。

【第1回】

- ・テーマ：「市民が描いた原爆の絵－記憶と向き合う－」
- ・期間：平成31年4月25日(木)～令和元年12月26日(木)

【第2回】

- ・テーマ：「海外収集資料から見る広島原爆被害と復興」
- ・期間：令和元年12月27日(金)～令和2年7月下旬（予定）

(㌥) ユースピースボランティア事業（決算額：23万2千円）

次代を担う広島の青少年自らが、平和の大切さを学ぶとともに、海外からの訪問者にヒロシマの心を伝える機会を創出するため、平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援した。

- ・ボランティア登録者数：31人（高校生25人、大学生6人）
- ・活動実績
 - ① 被爆の実相や異文化理解等の事前研修の受講 3回
 - ② 平和記念公園でのガイド活動 7回（41か国・地域232人）

(㌦) 平和記念資料館再整備事業（決算額：3,172万6千円）

平成31年4月25日の資料館本館のリニューアルオープンに伴い、本館の資料展示、誘導サインの設置等を行った。

また、リニューアル後の展示内容に合わせた図録の制作を進めるとともに、音声ガイドの多言語化を行った。

(㌧) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク（決算額：16万5千円）

神奈川県横浜市で開催された第26回日本平和博物館会議に参加し、協議や情報交換を行った。

- ・期 日：令和元年11月21日(木)・22日(金)
- ・場 所：神奈川県立地球市民かながわプラザ

(㌨) 展示・収蔵資料等の調査研究（決算額：175万3千円）

原爆や平和問題などについて、広島平和記念資料館資料調査研究会の会員による調査研究を行った。

- ・テーマ：「広島平和記念資料館の展示環境」、「相原秀二資料のデジタル化について」など9件

イ 平和意識高揚事業

(㌷) こども平和キャンプの開催（決算額：23万8千円）

平和意識の高揚を図るため、小学校4年生から中学校3年生までを対象に被爆の実相や平和の大切さについて学ぶ場を提供した。

- ・期 日：令和元年 6 月 1 日(土)・2 日(日)
- ・場 所：平和記念公園周辺、広島市似島臨海少年自然の家など
- ・内 容：平和学習講座受講、資料館見学、被爆電車乗車、似島での遺構めぐりなど
- ・参加者：29 人

(イ) ひろしま子ども平和の集い（決算額：80 万 2 千円）

平和記念式典参列等のために広島を訪れる子どもたちと広島在住の子どもたちに、平和のメッセージを発信してもらうことにより、若い世代の平和意識の高揚と主体的な取組の促進を図った。

- ・期 日：令和元年 8 月 6 日(火)
- ・場 所：広島国際会議場 フェニックスホール
- ・内 容：平和への思いを言葉や歌など様々な形で発表
- ・参加者：13 団体 120 人（市内 6 団体 74 人、市外 7 団体 46 人）

(ウ) こどもたちの平和文化活動支援事業（決算額：143 万 4 千円）

小・中学生による多様な平和文化活動を奨励することにより、その活動を活性化させ、子どもたちの平和意識の高揚を図るため、平和文化活動（絵画、習字、作文、俳句、標語、工作など）を行った学校からの申請を受け、参加者全員に記念品を贈った。

- ・参加者数：3,604 人

(エ) 機関紙の発行等（決算額：407 万 5 千円）

- a 本財団が行う平和や国際交流・協力への取組を紹介する和文機関紙「平和・文化」、英文機関紙「PEACE CULTURE」を発行するとともに、本財団の事業報告「平和と交流 2019 年版（平成 30 年度事業）」を作成しホームページに掲載した。

区 分	発行回数・部数	配 布 先
和文機関紙 「平和文化」	3 回 各 6,000 部	有識者、平和関係団体、国公立図書館、大学図書館、国際交流・協力団体、登録ボランティア、本財団理事・評議員・専門委員・会員、海外友好パートナー、海外姉妹・友好都市、広島市関係機関、広島市内小・中・高・大学等
英文機関紙 「PEACE CULTURE」	2 回 各 2,000 部	海外の有識者、海外平和関係機関、海外友好パートナー、海外姉妹・友好都市、海外軍縮NGO、国内国際交流・協力団体、翻訳ボランティア、在日大使館等

b 本財団の活動に関する情報等をインターネットで適宜提供した。

- ・ホームページアクセス件数：139,066件

c 日本平和学会春季研究大会に出席し、平和研究の最新の成果を学ぶとともに、学会員との交流を深めた。

- ・期 日：令和元年6月22日(土)・23日(日)
- ・場 所：福島大学（福島市内）

(オ) 平和宣言の発信（決算額：163万1千円）

核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成し、核兵器保有国の政策変更につなげるため、平和宣言の内容を国内外に発信した。

- ・方 法：① 平和宣言文パネル(和文、英文)の作成及び掲示
- ② 平和宣言読み上げの動画の作成及び広島市ホームページでの発信（日本語、英語）
- ③ 平和宣言文の8か国語（スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語）への翻訳及び広島市ホームページでの発信
- ④ 平和宣言文の印刷、配付及び送付
(和文：23,000部、英文：13,000部、和英文：2,600部、点字：250部)

(カ) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用（決算額：1,655万3千円）

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴え、国際世論を醸成していくため、広島平和記念資料館のホームページ等で原爆・平和に関する情報を発信した。

① 広島平和記念資料館ホームページの管理・運用

・アクセス件数：1,033,736件

② データベースの管理・運用

平和記念資料館が所蔵する被爆資料、写真、絵、動画等の原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部を公開した。

・公開件数：96,227件

(キ) 情報資料室の管理運営（決算額：233万8千円）

平和文化の普及、高揚と被爆体験の継承を図るため、市民にとっての調査、研究の場として設置している情報資料室において、原爆・平和に関する資料・情報の収集、保存を行い、利用に供した。

・利用者数：13,588人

・資料展の開催：

① 「広島城と原爆」

期間：令和元年10月1日(火)～令和2年2月28日(金)

② 「この世界のさらにいくつもの片隅に 広島のスズさん展」

期間：令和2年3月27日(金)設営～令和2年9月（予定）

ウ 国際平和推進事業

(ア) 国際平和シンポジウムの開催（決算額：276万6千円）

市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、広島市及び朝日新聞社との共催により、シンポジウムを開催した。（広島市と長崎市で交互に開催）

・期 日：令和元年7月27日(土)

・場 所：広島国際会議場

・参加者数：約550人

(イ) 国連軍縮フェローズの受入れ（決算額：31万3千円）

国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・

プログラム」の支援として、各国外交官等の研修生（フェローズ）を広島で受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施した。

- ・ 時 期：令和元年 10 月 2 日（水）～ 4 日（金）
- ・ 場 所：平和記念公園、広島平和記念資料館等
- ・ 内 容：①被爆体験講話聴講
②広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、
原爆ドーム、放射線影響研究所見学
③広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）参拝・献花等
- ・ 受入人数：27 人

(ウ) 中国人民平和軍縮協会との交流（決算額：0 円）

中国の平和・軍縮分野の N G O である中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、平成 31 年度に予定していた訪中団の派遣は、双方の協議の結果、次年度に延期することとなった。

(エ) ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言（決算額：48 万 3 千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。

- ・ 実施回数：5 か国 6 都市・6 回

(オ) ピースナイターの開催（決算額：30 万円）

市民等の平和意識の喚起を図るため、広島東洋カープの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信する「ピースナイター」を生活協同組合ひろしま等との共催により実施した。

- ・ 期 日：令和元年 8 月 6 日（火）
- ・ 場 所：MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島（広島市民球場）
- ・ 内 容：①原爆ドームと同じ地上 25 m の座席の観客が赤色のポスターを、
その他の座席の観客が緑色のポスターを掲げることによる「ピースライン 25」の掲出
②地元高校生等による「ピースパフォーマンス」
③大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映

(カ) 国外原爆写真展用資料の提供（決算額：47 万 1 千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、N G O、学校、個人等に対し、ヒ

ロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行った。

〔ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター〕

区 分	点数	国・地域数
英語版	20	11
ドイツ語版	3	1
ハングル版	2	1
イタリア語版	1	1
スペイン語版	1	1
日本語版	1	1
フランス語版	1	1
ポルトガル語版	1	1
計	30	18

〔映像資料等〕

貸出・提供資料	点 数
映像資料（DVD）	75
ポスター用データ等	38
計	113

（キ） ヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催（決算額：1,049万4千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、米国で「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」を開催した。

〔ロチェスター市〕

- ・期 間：令和元年9月16日(月)～令和元年10月2日(水)
- ・場 所：ロチェスター市 ロチェスター・モンロー郡中央図書館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験講話、原爆記録映像上映、被爆体験記の閲覧等
- ・入場者：約1,000人

〔ロサンゼルス市〕

- ・期 間：令和元年11月9日(土)～令和2年3月1日(日)
- ・場 所：ロサンゼルス市 全米日系人博物館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験講話、原爆記録映像上映、被爆体験記の閲覧等
- ・入場者：約28,000人

(㌘) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム（決算額：6万5千円）

被爆の実相や被爆者の核兵器廃絶への願いを若い世代に継承するため、国内外の大学及び大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを、「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。

また、新たに認定した大学への教材の送付、広島で平和学習を実施した大学への被爆体験証言聴講の機会の提供など、講座の充実に向けた協力を行った。

- ・新規認定大学：福山市立大学
- ・認定大学数：国内51大学、国外24大学（令和2年3月31日現在）

(㌙) 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修（決算額：366万5千円）

常設の原爆展を開設している国連3施設の見学ツアーガイドを広島に招へいし、被爆の実相を理解するための研修を実施した。

- ・期 間：令和元年11月30日(土)～12月4日(水)
- ・場 所：広島平和記念資料館、平和記念公園等
- ・内 容：①被爆体験講話の聴講
②広島平和記念資料館、原爆ドームの見学
③被爆の実相等の講義の受講
④慰霊碑・被爆遺構めぐり
⑤ボランティアとの交流会 等
- ・招へい人数：6人

(㌚) 平和首長会議の運営（決算額：737万4千円）

加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通じて、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。

- ・内 容：①未加盟都市への加盟要請
②加盟都市の活動情報の収集及びホームページやフェイスブックでの公表
③加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言文の送付
④月刊メールマガジンの発行
⑤平和首長会議情報システムの運用保守 等
- 〔 平和首長会議加盟都市数：163か国・地域7,869都市
（令和2年3月1日現在） 〕

(サ) 2020ビジョンキャンペーンの展開（決算額：4,258万6千円）

平和首長会議加盟都市の市民、NGO等と連携して、2020年までの核兵器廃絶を目指す行動指針「2020ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行動）」及びその具体的な取組を定めた「平和首長会議行動計画（2017年－2020年）」に基づき、同ビジョンキャンペーンの世界的な展開を図った。

- ・内 容：① 2020年NPT再検討会議第3回準備委員会への出席
 - ・ 期間：平成31年4月28日(日)～令和元年5月5日(日)
 - ・ 場所：米国・ニューヨーク市
- ② 第87回全米市長会議年次総会への出席
 - ・ 期間：令和元年6月29日(土)～7月3日(水)
 - ・ 場所：米国・ホノルル市
- ③ 国連・各国政府関係者等との面会のためのスイス・ジュネーブ市訪問
 - ・ 期間：令和元年11月13日(水)～15日(金)
- ④ オバマ財団主催2019アジア太平洋地域リーダーズプログラムへの出席
 - ・ 期間：令和元年12月9日(月)～16日(月)
 - ・ 場所：マレーシア・クアラルンプール市
- ⑤ サッカーを通じた平和意識の醸成
 - ・ 期日：令和元年8月3日(土)
 - ・ 場所：エディオンスタジアム広島
- ⑥ 第9回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催
 - ・ 期日：令和元年10月24日(木)・25日(金)
 - ・ 場所：国立市
 - ・ 出席者数：147人（83都市）
- ⑦ 核兵器禁止条約の早期締結を求める署名活動の展開
 - ・ 署名数：約296万筆（令和2年3月1日現在累計）
- ⑧ 平和首長会議加盟都市等への被爆樹木の種・苗木の配付
 - ・ 配付実績：（国内）11都市
（海外）7か国・17都市
- ⑨ 子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2019の実施
 - ・ 募集時期：令和元年6月3日(月)～11月20日(水)
 - ・ 参加国数・都市数：21か国70都市
 - ・ 応募総数：2,829点
 - 6歳から10歳部門：1,552点
 - 11歳から15歳部門：1,277点

(シ) 平和首長会議の体制強化（決算額：20万8千円）

平和首長会議の海外加盟都市関係者の広島訪問等の機会を捉え、被爆の実相と平和首長会議の取組について更に理解を深めてもらうとともに、事務局との意見交換を行うことで、加盟都市との連携を強めた。また、各地域での加盟拡大や平和首長会議の活動の活性化に向けた協力を依頼し、体制の強化を図った。

① 平和記念式典に合わせた広島訪問

- ・受入都市：タイ・バンコク都、カメルーン・フォンゴトンゴ市、イラク・ハラブジャ市
- ・期日：令和元年8月6日(火)

② スペイン・グラノラズ市長一行の広島訪問

- ・期日：令和元年12月12日(木)

③ メキシコ・メキシコシティ市議会議員一行との面会

- ・期日：令和2年1月16日(木)
- ・場所：駐日メキシコ合衆国大使館

(ス) 平和首長会議インターンシップ（決算額：191万3千円）

平和首長会議の海外加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議事務局の業務に従事してもらうことにより、国際的な業務の充実及び各加盟都市との連携強化を図った。

また、各インターンには、被爆の実相についての理解を深め、ヒロシマの平和への思いを共有してもらい、帰国後にそれぞれの都市において世界恒久平和の実現に向けた活動を推進してもらっている。

・招へい人数及び期間

国	都市名	人数	期間
カザフスタン	セメイ	1	R1. 6. 19～R1. 7. 2
スペイン	グラノラズ	1	R1. 7. 9～R1. 7. 26
イラン	テヘラン	1	R1. 9. 4～R1. 9. 27
ブラジル	サントス	1	R1. 11. 18～R1. 11. 29
英国	マンチェスター	1	R2. 2. 3～R2. 2. 14

(セ) 青少年「平和と交流」支援事業（決算額：625万7千円）

平和首長会議の国内外の加盟都市の青少年を招へいし、広島市等が主催する4つの事業に参加してもらうとともに、平和首長会議の概要説明、被爆体験証言の聴講や広島平和記念資料館の見学、各事業の参加者と事務局を交えた意見交換会などのプログラムを実施した。

派遣元加盟都市では、参加者の報告を踏まえ、平和施策のより一層の充実を図っている。

事業名 (主催)	事業の対象者	平和首長会議加盟都市からの参加者		
		国内	国外	都市
HIROSHIMA and PEACE (広島市立大学) 期間：7/30～8/9 (11日間)	広島市立大学・他都市の大学生等	2人 (学生)	6人 (学生 社会人)	国立市、京都市、 グラノーラズ市、イン パール市、クラスノダール市、マンチェスター市、サントス市、テヘラン市
青少年国際平和未来 会議ヒロシマ (広島市教育委員会) 期間：8/4～8/12 (9日間)	本市及び姉妹・友好都市等の青少年 (高校生・大学生等)	—	4人 (学生)	グリニー市、ハノーバー市、テヘラン市、イー ペル市
ひろしま子ども 平和の集い (広島市等) 期間：8/5～8/7 (3日間)	8/6に広島を訪れる子どもたちと広島の子 どもたち	33人 子ども 28人 引率者 5人	—	市原市、日野町、 岡山市、日向市、 那覇市
ヒロシマ平和行政実 務者研修 (広島平和文化セン ター) 期間：1/30～1/31 (2日間)	国内加盟都市 の若手職員	14人	—	旭川市、北広島市、 港区、国立市、府 中市、茅ヶ崎市、 松本市、高山市、 御嵩町、向日市、 宝塚市、明石市、 上毛町、鹿児島市

(ソ) NPT再検討会議等への高校生派遣事業（決算額：445万1千円）

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた平和活動を担う次代のリーダー

の育成を図るため、2020年NPT再検討会議第3回準備委員会に高校生を派遣し、核兵器を巡る国際情勢を学ぶとともに、ヒロシマのメッセージを発信してもらった。

- ・派遣期間：平成31年4月29日(月)～令和元年5月5日(日)
- ・派遣先：米国・ニューヨーク市
- ・派遣人数：高校生8人

(イ) 第11回平和首長会議理事会の開催（決算額：644万4千円）

平和首長会議の役員都市による第11回平和首長会議理事会を開催し、2020ビジョンの達成状況と現行動計画の取組状況を踏まえ、令和2年（2020年）8月の第10回平和首長会議総会で策定予定の2021年以降の新たなビジョンや行動計画について審議した。

- ・期日：令和元年11月11日(月)・12日(火)
- ・場所：ドイツ・ハノーバー市

(ロ) 第10回平和首長会議総会の準備（決算額：78万7千円）

令和2年（2020年）8月に広島市で開催し、2021年以降の新たなビジョンや行動計画の策定を予定している第10回平和首長会議総会の円滑かつ効果的な運営に向け、会議内容の検討、プログラムの作成等の各種準備を進めた。

エ 施設の管理運営

(ア) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営（決算額：3億3,564万5千円）

厚生労働省からの受託事業として追悼平和祈念館の管理運営を行った。

- ・入館者数：379,163人

（平成14年8月の開館以降の入館者数：4,592,818人）

※令和2年2月29日～3月31日臨時休館

a 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

平成12年度から実施している原爆死没者の氏名・遺影の登録を引き続き実施するとともに、館内で公開した。

- ・原爆死没者氏名・遺影の登録状況（令和２年３月３１日現在）
（単位：人）

氏名・遺影	氏名のみ	計
21,023	2,766	23,789

b 被爆体験記の収集・整理・公開

平成９年度から実施している被爆体験記の収集・整理（データベース化）を引き続き実施するとともに、館内で公開した。

- ・被爆体験記の収集・整理状況（令和２年３月３１日現在）
（単位：人分、％）

区 分	収集件数	整理件数	進捗率
厚生省収集分被爆体験記（H7）	81,205	81,205	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記（H17）	11,778	11,778	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記（H27）	11,346	2,640	23.3
独自収集分被爆体験記	3,379	3,379	100.0
図書（被爆体験記集等）	（5,102 冊）	39,715 （2,863 冊）	（56.1）
計	—	138,717	—

- （注）１ 厚生省・厚生労働省収集分被爆体験記：厚生省（当時）・厚生労働省が各年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。
- ２ 独自収集分被爆体験記：平成９年度以降、独自に収集した被爆体験記をいう。

c 企画展の開催

一つのテーマに沿って、所蔵する被爆体験記や追悼記を選び出し、日本語のほか多言語（英語・中国語・韓国・朝鮮語）に翻訳して紹介するとともに、約３０分の映像作品を制作し館内で上映した。この映像作品は、平和学習資料（ＤＶＤ）として貸し出すとともに、ホームページで公開した。

- ① テーマ 「流燈 広島市女原爆追憶の記 最も多くの犠牲を出した女学校の記録」

- ・期 間：平成31年1月1日(火)～令和元年12月29日(日)
- ・内 容： 建物疎開作業に生徒が動員された学校の中では、広島市立第一高等女学校（現在の市立舟入高等学校）の被害は666人と、最も多い犠牲者数となった。

企画展では、遺族による追悼集『流燈』に掲載された体験記を中心に遺影や関連資料を展示し、戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えた。

② テーマ 「時を超えた兄弟の対話 ―ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづった直登の日記―」

- ・期 間：令和2年1月1日(水)～12月29日(火)（予定）
- ・内 容： 画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎は、最愛の弟・直登を原爆により失った。

企画展では、被爆当日から亡くなる前日まで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の追悼文や作品を紹介しながら、時を超えた2人の対話を再現した。

d 被爆者証言ビデオの制作

被爆体験を継承するため、広島県外・国外在住被爆者の証言映像を収録し、当時の資料写真や証言者の家族写真などを織り交ぜながら、一人30分程度に編集し証言ビデオを制作した。なお、制作した証言ビデオは、館内及びインターネット上で公開するとともに、平和学習用として貸出を行った。

- ・県外在住被爆者収録者数：18人
(福島県1人、神奈川県8人、埼玉県2人、東京都3人、愛知県4人)
- ・国外在住被爆者収録者数：5人（米国）

e 被爆体験記の朗読事業

若い世代へ被爆体験を継承するため、修学旅行などで広島を訪れた児童生徒を対象に被爆体験記（原爆詩を含む。）の朗読会を開催した。また、来館者が自由に参加できる定期朗読会を毎月開催し、外国人来館者にも英語定期朗読会を行った。さらに、広島市内の学校、公民館等へ出向く出前朗読会などを開催したほか、国内原爆展会場でも朗読会を行った。

また、独自で被爆体験記朗読会を希望する団体等へは、朗読セットの貸

出を行った。

- ・朗読会開催回数：１７４回
- ・朗読セット貸出件数：１５件

f 広島平和学習セミナーの開催

多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催した。

期 日	開催地	参加人数
令和元年８月２１日（水）	東京都	２５人
令和元年８月２２日（木）	名古屋市	１３人

g 被爆体験記執筆補助

高齢などの理由により被爆体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、体験談の聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図った。

- ・執筆補助事業対象者：広島県内在住の被爆者
- ・聞き取り人数：１１人（一般公募）

h 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成、被爆体験記の翻訳を行った。

また、追悼平和祈念館リーフレットを、新たにスウェーデン語、インドネシア語、フィリピン語、ウルドゥー語に翻訳し、来館者サービスの向上を図った。

- ・証言ビデオ

翻訳字幕付本数：１０言語２６本〔累計：２３言語１，２８３本〕

- ・被爆体験記

翻訳編数：４言語２３編〔累計：２４言語１，２２２編〕

- ・リーフレット

翻訳言語数：６言語〔累計：２１言語〕

i 被爆体験伝承者等派遣・語学研修

次世代へ被爆体験を伝承するため、被爆体験伝承者や被爆体験記朗読ボ

ランティアを国内外に派遣した。

また、被爆体験伝承者と被爆体験記朗読ボランティアに英語実技研修を行った。

・伝承講話実施回数：398回（2回）

・朗読会実施回数：53回（2回）

＊（ ）内は国外派遣の実施回数で内数。

ｊ インターネットによる情報発信

事業内容をホームページに掲載するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して被爆の実相を伝えた。

・アクセス件数

祈念館ホームページ：2,082,086件

平和情報ネットワーク：5,526,862件

ｋ 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点から建物・展示更新の視点も含めた「情報システム機器更改・展示整備基本構想」を取りまとめた。

ｌ 施設の管理等

空調設備の大規模修繕、その他設備の保守・点検を行うとともに、施設全体の中長期修繕計画を策定した。

(イ) 広島平和記念資料館の管理運営（決算額：2億8,494万3千円）

平和30年度～令和3年度の指定管理者として、平和記念資料館の管理運営を行った。

・入館者数（単位：人）

区 分	入館者数	内 訳	
		個 人	団 体
大 人	1,284,251	1,143,613	140,638
小 人	474,495	149,034	325,461
計	1,758,746	1,292,647	466,099

- ・「新着資料展」の開催（自主事業）

新たに寄贈された資料を紹介するため、新着資料展を開催している。

期間 令和2年3月26日（木）設営～令和3年3月（予定）

場所 東館地下1階 特別展示室

※令和2年2月29日～3月31日臨時休館

(ウ) 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（決算額：25万8千円）

(2) 公益目的事業2（国際交流・協力事業）

ア 国際交流・協力推進事業

(7) 国際交流・協力事業への助成（決算額：78万6千円）

市民レベルの国際交流・協力の推進を図るため、広島市内で活動している団体が、自主的に企画・実施する国外又は市内での国際交流・協力事業に対して助成を行った。

区 分	助成団体数
国際交流・協力活動育成補助金 ※活動実績2年未満の団体を対象とした補助金	0
国際交流・協力活動振興補助金 ※活動実績2年以上の団体を対象とした補助金	4
(国 外 事 業)	(2)
(市 内 事 業)	(2)

(イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営（決算額：157万2千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりに努めた。また、国際交流・協力課のホームページを活用し、加入団体の活動情報等を発信した。

- ・内 容：加入団体への情報提供、研修室・ボランティア活動コーナーの運営、ホームステイのあっせん等
- ・加入団体数：150団体（令和2年3月31日現在）
- ・ホームページアクセス件数：123,856件

(ウ) 国際フェスタの開催（決算額：428万9千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体間の交流を促進するとともに、市民の関心を高めるため、「第20回国際フェスタ2019（国際会議場開館30周年記念）」を開催した。

- ・期 日：令和元年11月17日（日）
- ・場 所：広島国際会議場、平和大通り緑地帯、平和記念公園
- ・内 容：① 野口健さんトークショー
「未来と世界の広げ方～落ちこぼれだった僕の場合」
② 世界の音楽と舞踊
「大地のビート、躍動のリズム」
③ 市民団体等活動紹介コーナー
④ ひろしま国際村～世界の屋台
⑤ 屋外ステージ
など全40事業を実施
- ・主 催：本財団（国際交流・協力課、国際会議場）
- ・共 催：独立行政法人国際協力機構中国センター、（公財）ひろしま国際センター、広島市
- ・参加団体：76団体
- ・入場者：延べ約16,300人

(エ) 「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営（決算額：450万2千円）

a 姉妹・友好都市の日の開催

広島市が海外の6つの姉妹・友好都市ごとに創設した「姉妹・友好都市の日」に市民参加型の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と国際意識の高揚を図った。

① 大邱の日

- ・期 間：令和元年5月3日（金・祝）～5月5日（日・祝）
- ・場 所：フラワーフェスティバル会場
- ・参加人数：約4,600人
- ・内 容：エリザベト音楽大学在学中の韓国人留学生と同大学生計7名によるステージでの管楽器の演奏、大邱広域市紹介コーナー、韓国文化体験コーナー、大邱の著名料理人などが調理した韓国家庭料理の販売コーナー等

② ハノーバーの日

(「ハノーバーの日&似島でドイツ体験」事業として広島市と合同開催)

- ・期 日：令和元年6月2日(日)
- ・場 所：似島公民館及び似島合同庁舎周辺駐車場、多目的広場
- ・参加人数：約650人
- ・内 容：カンファレンスバイクの試乗、上田流茶道の体験、ドイツ製法のソーセージとドイツパン・バウムクーヘンの試食、ドイツ音楽コンサート、ドイツ絵本の展示・読み聞かせ等
【広島市開催事業】バウムクーヘン手作り体験、サンフレッチェ広島によるサッカー教室、似島紹介パネル展、似島の歴史講演会等

③ モントリオールの日

- ・期 日：令和元年7月21日(日)
- ・場 所：福屋広島駅前店 6階マルチの広場
- ・参加人数：約250人
- ・内 容：モントリオール&カナダ紹介展、メープルウォーターの試飲、メイプルラスクの試食、モントリオールクイズ、女性ジャズボーカリストのリサイタル、お楽しみ抽選会等

④ ボルゴグラードの日

- ・期 日：令和元年9月8日(日)
- ・場 所：広島市留学生会館
- ・参加人数：約160人
- ・内 容：黒パンとロシア風ギョウザの試食、エリザベト音大生はじめ広島の音楽家によるロシア音楽コンサート等

⑤ 重慶の日

- ・期 日：令和元年10月26日(土)
- ・場 所：広島市留学生会館
- ・参加人数：約240人
- ・内 容：中国菓子・菊花茶の試食・試飲、和紙ちぎり絵、中国伝統

芸能「変面」や太極拳の披露、お楽しみ抽選会等

⑥ ホノルルの日（姉妹都市提携60周年記念）

- ・期 日：令和元年11月5日（火）
- ・場 所：JMSアステールプラザ中ホール
- ・参加人数：約400人
- ・内 容：姉妹都市60周年記念式典、姉妹都市60周年記念コンサート（広島のアワイアンバンドとフラのステージ、ジェフ・アウ・ホイ氏によるスチールギターのコンサート）等

b ヒロシマ・メッセンジャーの運営

「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画立案・進行を担当するとともに、学校等に出向いて国際理解学習の講師を務める「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集した。

- ・募 集 時 期：令和元年10月1日（火）～10月31日（木）
- ・募 集 人 数：姉妹・友好都市ごとに2人、計12人
- ・応募者面接会：令和元年12月5日（木）
- ・任 期：令和2年1月～12月

イ 国際化推進事業

(7) 国際交流員による国際交流事業の実施（決算額：1万5千円）

地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校等が実施する国際交流・国際理解事業に、英国出身の国際交流員を派遣した。

- ・派遣回数：22回

また、国際交流員が市民からの質問や相談に応じる「国際交流員の相談日『Have a Natter!』」を月1回実施し、国際交流員と参加者による自由な意見交換を行った。

- ・実施回数：11回 ※3月は中止
- ・参加人数：延べ80名

(4) 情報誌の発行（決算額：9万7千円）

外国人市民のための生活・文化情報誌「HIRO CLUB NEWS」を作成・配布

した。また、同誌の情報をインターネットでも提供した。

・発行回数・部数等

① 英語版

月 2 回（約 100 部/回）発行、1 日号約 30 ページ・15 日号 3 ページ程度

② 中国語、ポルトガル語、スペイン語版

月 1 回（約 50 部/回）発行、約 15 ページ

〔掲載情報〕

広島市広報紙「ひろしま市民と市政」掲載記事の抜粋、広島平和文化センターからのお知らせ、コンサート・演劇情報等

・配布先：県内国際交流団体、広島市関係機関、広島市内の日本語教室等

(ウ) 国際交流・協力団体との連携（決算額：28 万 9 千円）

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、(公財)ひろしま国際センター等関係機関との連絡会議に参加したほか、二国間団体の運営に関し助言を行うとともに、地域国際化協会の研修会等に参加した。

(イ) 通訳ボランティアの研修・派遣事業（決算額：15 万 2 千円）

日本語での会話が困難な外国人市民の生活を支援するため、登録ボランティアに対し、通訳者として必要な研修を行うとともに、要請に応じて区役所や学校、国際的会合などに派遣した。

・派遣件数：31 件

・派遣人数：延べ 53 人

〔研修会〕

期日・場所	内 容 ・ 講 師
第 1 回 令和 2 年 2 月 1 5 日(土) 広島国際会議場 会議運営事務室	・「広島市の多文化共生の取組、現状等」 ・「通訳ボランティア派遣制度について」 ・「通訳ボランティアによる体験談」

第 2 回（2 月 2 9 日）、第 3 回（3 月 7 日）の研修は中止。

(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業（決算額：1,694 万 8 千円）

日本語に不慣れな外国人市民のために、多言語で対応できる相談窓口を開

設し、窓口や電話での生活支援相談、生活関連情報の提供・翻訳、行政機関等への同行、電話による通訳などを行った。

また、外国人市民が広島市で暮らす上での生活情報等を分かりやすく掲載したウェブサイト「外国人市民のみなさんへ」（８言語）を作成し、公開した。

このほか、令和元年１０月からは、広島出入国管理局職員による在留資格に関する専門指導を月１回（第２金曜日）実施した。

- ・開設場所：国際会議場１階 国際交流ラウンジ
- ・開設日時：月曜日から金曜日（祝日・年末年始・８月６日を除く）

午前９時～午後４時

区 分	月	火	水	木	金
中国語相談員	○	○	○	○	○
スペイン語相談員	○	○	○	○	○
ポルトガル語相談員	○	○	○	○	○
令和元年９月～ ベトナム語相談員		○			○

※安芸区役所出張相談（第２水曜日（ポルトガル語）、第３木曜日（スペイン語）に実施）

※基町管理事務所出張相談（第２火曜日（中国語）に実施）

- ・対応件数：９７８件（相談：３６２件、通訳２７１件、翻訳３４５件）

（カ）外国人市民の日本語能力向上支援事業（決算額：２５万１千円）

地域日本語教室が抱える課題の一つであるボランティア不足を解消するため、ボランティア養成講座を開催した。

ア 日本語教室ボランティア養成講座

- ・期 間：令和元年８月２０日（火）～９月２４日（火）の毎週火曜日と令和２年１月２８日（火）の全１０回
- ・場 所：広島国際会議場３階 研修室
- ・内 容：日本語学習支援の基礎、外国人市民による日本語学習体験談、日本語教室の紹介・交流会、ボランティア活動開始後のフォローアップ研修

- ・参加人数：延べ334人

ｂ 日本語教室ボランティアスキルアップ講座

2月29日(土)に開催予定であったが中止した。

ウ ひろしま奨学金支給事業（決算額：1,100万2千円）

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生に対し、経済的な問題に影響されることなく安心して学業に専念できるよう、奨学金を支給した。

また、奨学生を対象とした平和学習を実施し、被爆の実相や核兵器廃絶に向けた取組を学ぶとともに、ヒロシマを発信する活動を積極的に行ってもらうことで、「平和」を通じた国際交流の推進を図った。

(7) ひろしま奨学金の支給

- ・支給人数：30人
- ・支給金額：30,000円／月×12か月

(4) 奨学生を対象とした平和学習

- ・期 日：令和2年1月11日（土）
- ・内 容：平和学習講座の受講、広島平和記念資料館の見学、被爆体験講話の聴講、学習の振り返り

(3) 収益事業等

ア 広島平和記念資料館での収益事業（決算額：1億2,259万3千円）

(7) 出版事業

- ・広島平和記念資料館ガイドブック（日本語版） 印刷：10,000部
- ・広島平和記念資料館ガイドブック（英語版） 印刷：10,000部
- ・被爆証言集（英語版） 増刷：3,000部

(4) 販売事業

原爆・平和関係の図書、グッズ、DVD等を、広島平和記念資料館内のミュージアムショップで販売した。

(ウ) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

広島平和記念資料館の常設展示の詳しい解説が聴ける音声ガイドの貸出しを行った。

- ・解説言語：日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語（５言語）
- ・貸出件数：１０１，２００件

イ 広島国際会議場での収益事業（決算額：８７２万７千円）

臨時売店の運営、飲料水自動販売機の設置、コピー・ファクスサービス、レセプションの手配等を行った。

ウ 広島国際会議場の管理運営（決算額：３億６，１４３万円）

平成２７年度～３１年度の指定管理者として、施設等の管理運営を行った。

(7) ホール及び会議室の利用状況

区 分	貸出可能 区分数 (区分)	利 用 区分数 (区分)	利用率 (%)	利用件数 (件)
フェニックスホール	1,080	397	36.8	174
国際会議ホール（ヒマワリ）	1,080	400	37.0	218
大会議室（ダリア）	2,160	934	43.2	341
中会議室（コスモス）	2,160	910	42.1	338
小会議室（ラン）	2,160	943	43.7	354
会議運営事務室	1,080	591	54.7	703
計	9,720	4,175	43.0	2,128

(注) 利用率とは、貸出可能区分数に対する利用区分数の割合。

(イ) 国際交流ラウンジの利用状況

(単位：人)

区 分	利用者数	内 訳	
		日本人	外国人
国際交流ラウンジ	61,544	54,106	7,438

Ⅱ 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たって、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

建物

(令和 2 年 3 月 3 1 日現在)

名 称	所 在 地	区分	現 在 高
広島平和記念資料館	中区中島町 1 番 2 号	建物	事務室等 698.60 m ²
広島国際会議場	中区中島町 1 番 5 号	建物	事務室等 314.62 m ²

Ⅲ 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はない。